

弁護者が来られる ヨハネ14:15~21 / 李正雨師

私には四人の子供がいます。四人を育ててみると、手が足りない時が多いです。それで、主に長男に手助けを頼んだり、お使いをさせたりしています。だからなのか、長男は条件をつけた要求が多くなりました。自分が親を助けているから、願っているものをくれということです。子供たちの立場としては、当然のことだと思います。自分の苦勞、手間がかかったから、親に何かを求めることはできると思います。しかし、親の考えは少し違います。子供の要求を聞いてあげることもあります。子供が条件や要求なしに喜んで親を助けてくれることを願います。なぜなら、親子の間のことは愛の関係で進めたいと思うからです。もちろん、親と子供の間で、条件や要求がまったくないわけではありません。親も子供に条件と要求を掲げることもあります。何でもよく食べたらとか宿題や勉強を終えたらとか手伝う条件を出すこともあるでしょう。しかし、このようなことの目的は、親の利益のためではありません。子供のためのもの、子供に対する愛によるものです。だから私は、最近このことを長男に教えています。

今週の福音書は、ヨハネによる福音書14章15節から21節の言葉です。私は、今日の福音書15節を読んだとき、この節をうちの長男に伝えたいと思いました。15節の言葉です。「あなたがたは、わたしを愛しているならば、わたしの掟を守る。」多くの人は、この節を掟を守れという言葉として理解しています。しかし、このイエス様の言葉の目的は、掟を守ることにあるではありません。愛にあります。そして私たちは、この愛の中でイエス様の掟を守っています。愛が掟を守らなければならない理由を教えてください。まるで親と子の関係のように、愛の中で掟を守っているのです。

イエス様はこの掟のために、すなわち愛のために、神様に特別な存在を願うと言われます。16節の言葉です。「わたしは父にお願いしよう。父は別の弁護者を遣わして、永遠にあなたがたと一緒にいるようにしてください。」イエス様は、ご自分の願いによって、神様は別の弁護者をお遣わしになると言われます。26節によると、この別の弁護者は聖霊であることがわかります。ここでの別の弁護者という言葉は、本当に面白い言葉だと思います。「別の弁護者」という言葉の意味を考えると、元の「弁護者」もいるということですね。それでは、元の「弁護者」はどなたでしょうか。イエス様自身を指すことだと思います。イエス様は、神様がご自分をお遣わしになったように、別の弁護者、聖霊をお遣わしになると言われます。そしてその方は、イエス様と同じことをし、イエス様と弟子たちが結んだ関係をつないでいくのです。イエス様が弟子たちから離れても、弟子たちだけが残されて神様の仕事をするわけではありません。イエス様が神様に願われた弁護者が弟子たちと共に永遠にいるからです。そして、その方は愛の中でイエス様の掟を守らせるのです。弟子たちを導かれ、守られ、助けられ、慰められるのです。

ところが、この弁護者という言葉は、何だかちょっと硬いようです。弁護者として解釈されたこの言葉は、原語で「パラクレートス(Παράκλητος)」です。この「パラクレートス」を「弁護者」として解釈したことには、いくつかの理由があると思います。その一つは、ヨハネによる福音書の著者が主に使用した用語が、当時の法定用語だったからです。ヨハネによる福音書には、「罪、義、裁き、証拠」など、当時の法定用語が登場しています。それで新共同訳の翻訳者たちは、今日の福音書の「パラクレートス」を「弁護者」と解釈したと思います。しかし、この「パラクレートス」という言葉の意味は、「弁護する者」だけを指すわけではありません。「慰める、助ける、勇気を与える、教える、アドバイスする」などの意味でも使われます。それで、他の口語訳や新改訳書では「助け主」として、NIV聖書では「カウンセラー」として、KJV聖書では「コンフォーター、慰める主」として翻訳しています。従って私は、バプテスマと洗礼と一緒に使われるように、「パラクレートス」も弁護者や聖霊と共に使われる方が良いと思います。

とにかく、この弁護者、パラクレートスは、この世に来られるのです。そして、この世界は弁護者を受け入れませんが、弟子たちは弁護者のことが分かって受け入れます。なぜなら、弟子たちは、元の弁護者イエス様を通して、弁護者がどんな方なのかを知っているからです。先週、私は、皆様にキリスト教の特徴について申しあげました。私たちのキリスト教の特徴は、ユダヤ教やイスラム教とは違い、キリストを通して神様のことが分かるということです。それで先週の福音書でイエス様は「わたしを見た者は、父を見たのだ(9節)」と言われたのです。今日の福音書のパラクレートス、聖霊も同じです。キリストを通して聖霊も知ることができるのです。多く聖霊と言えば、「神様の霊」と「能力」を思い出します。何か神秘的で特別な存在。この世で発見することができる神様の力を聖霊だと思いがちです。しかし、聖霊の役割は、イエス様と同じです。イエス様が弟子たちと共におられ、彼らを導かれたように、聖霊も弟子たちを導かれるのです。神様の言葉へ弟子たちと教会を導かれ、17節の言葉のように弟子たちの内におられ、彼らを助けられ、慰められ、教えられ、弁護されるのです。それで、クリスチャンは平安の中で、見えないキリストに従うことができるのです。私たちの内におられる聖霊がキリストを啓示してくださっているからです。

このことは18-19節の言葉でより明確に示されます。「わたしは、あなたがたをみなしごにはしておかない。あなたがたのところに戻って来る。しばらくすると、世はもうわたしを見なくなるが、あなたがたはわたしを見る。わたしが生きていますので、あなたがたも生きることになる。」死と復活、そして昇天のため、イエス様は弟子たちと一緒におられません。これは、この世ではもはやイエス様の姿を見たり会ったりすることはできないということです。しかし、これはイエス様との別れを言うわけではありません。弟子たちは、見えないイエス様を感じる事ができ、イエス様は、変わらず弟子たちを導いてくださるのです。この世の方法ではなく、天の方法でイエス様と弟子たちは生きていますからです。そして弟子たちは、自分の中におられる聖霊を通してイエス様と交わることができるからです。この交わりの中で、私たちを含めたすべての弟子たちは、イエス様の導きを感じることができます。イエス様が私たちを守っておられることが分かります。それでイエス様は、弟子たちに聖霊をお遣わしになったのです。私たちがイエス様のことが分かり、その言葉に従うことができるように、偽りと誘惑に負けないように、真理を求めることができるように、イエス様は神様に聖霊を願われたのです。

そして、私たちに与えられた聖霊は、私たちの中で素晴らしいことをなさるのです。20節の言葉です。「かの日には、わたしが父の内におり、あなたがたがわたしの内におり、わたしもあなたがたの内におることが、あなたがたに分かる。」聖霊が来られると、弟子たちはすべてのことを悟るようになります。聖霊を通してイエス様の中におることができるからです。もはやイエス様の教えを聞いて分かるものではありません。聖霊を通してイエス様と一つになったので、すべてのことが分かるのです。それで聖霊が来られた後、弟子たちは変わったのです。隠れておらず、大胆になり、知恵ある者になりました。みんなが小さなイエスになって福音を宣べ伝え、小さなイエスとして生まれました。真理の霊が愛の交わりの中でイエス様の言葉を守らせたからです。そして今、私たちの中でも、聖霊はこの働きをなさっています。私たちを神様の言葉に導き、イエス様の掟である愛を守らせてくださいます。これによって、私たちは神様を愛し、隣人を愛することができるのです。この世に来られた聖霊は、すべての信徒たちをキリストの愛に招待されました。そして、その愛の中で、真理を悟らせ、愛の意味を知らせました。聖霊降臨を迎え待っている私たちにも、この恵みが与えられますように願います。聖霊を通して生きておられるイエス様と会う機会が与えられますように。その愛の中で多くのことを悟る私たちになりますように、主の御名によって祈ります。アーメン